南加キリスト教教会連合

二都物語「エルサレム首都移転」

山本　真美子

「あなたの子孫は砂のように・星のように」創世記16：10には、イシュマエルに子孫の祝福が約束されている。イスラム教徒はこの箇所を取替え、「アブラハムの長子はイシマエルだった。『私は彼を祝福して多くの子孫を得させ、大いにそれを増すであろう』と神がイシュマエルを約束の子とした」と言う。確かに、イシュマエルはアブラハムの血（DNA）を持った息子である。「しかしわたしは、サラがあなたに産むイサクと、わたしの契約を立てる」（創世記17：21）

聖書的に見ると、神は、エレツ・イスラエル（イスラエルの土地）と選民の約束をイサク（イスラエル・ユダヤ人）と契約したのである。

考古学的に見ると、エルサレムは3500年もユダヤ人の首都である。一番古いアマッシュと呼ばれるオストラコン（陶器破片）には、『u-ri-sha-li-im』（エルサレム）という文字が書かれており、紀元前2世紀のエラマナの手紙には、『i-ni-sha-li-im』と書かれている（エジプト古文書）。

以前、ユダヤ人自身が「首都反対をしている姿」を日本で報道した。「イスラエルは公平でない」という。そのグループは、ハラディと呼ばれる超正統派のユダヤ教徒だ。ハラディ派は多数分派があるが、エルサレムのミア・シャリームに住んでいるのは、トルドス・アロン派で、極端にメシアの到来を待ち望んでいる人々だ。1948年のシオニストによるイスラエル建国にも、真っ向から大反対だった。「真のイスラエルを建てるのはメシアで、人間によるのではない」というのが理由で、現在までも続いている。「イスラエルは公平でない」という。そのグループは、ハラディと呼ばれる超正統派のユダヤ教徒だ。ハラディ派は多数分派があるが、エルサレムのミア・シャリームに住んでいるのは、トルドス・アロン派で、極端にメシアの到来を待ち望んでいる人々だ。1948年のシオニストによるイスラエル建国にも、真っ向から大反対だった。「真のイスラエルを建てるのはメシアで、人間によるのではない」というのが理由で、現在までも続いている。

「人間（トランプ大統領）が認めたエルサレムは意味がない。例えパレスチナ・アラブ人がエルサレムを奪ったとしても、メシアの到来で崩壊されるのだから、欲しかったら取ればよい」と定義している。

アラブ側の見解はどうであろうか。スンニ派対シーア派の「どちらが正統な流れをくむイスラエム教か」という兄弟同士の不和が絶えない。ハマスやパレスチナに、テロ資金の援助をしているのがイラン（シーア派）である。サウジアラビア、エジプト各スンニ派諸国の外側外交は、最近イスラエルに接近しており、何とか二国分割案を承認してほしいと願っているようだ。

多くの人は、エルサレム首都移転前に、アメリカ領事館がすでにエルサレムにあった事さえ知らない。歴史的に見ると、16世紀以来パレスチナを治めていたオスマン帝国時代、パレスチナの土地（イスラエル）は不毛で、涙を流して「エルサレムに帰りたい」と願ったのは、ユダヤ人ぐらいだった。オスマントルコが去り、イギリス軍占領統治終了後、イスラエルが建国してユダヤ人が帰還し始めると、荒野が緑に変わった。ユダヤ人が植林をし、畑を耕し、高層ビルを建てた。第三次中東戦争（六日戦争）で旧市街がイスラエルに戻ったとたん、「ハマスやアラブパレスチナ・テロ組織はイスラエルが欲しくなった」という事だ。

イスラエルの地は神が所有している。イエスは言われた。「にせキリストたちや偽預言者が起こって、大いなるしるしと奇跡とを行い、できれば選民をも惑わそうとするであろう」（マタイ24：24）主の再臨に向かい時が進んでいる。

（南加教会連合 イスラエル宣教担当）